

四季折々の詩

麻里布中学校
令和7年11月10日 No.252
Tel 22-2234 FAX 22-2235



自分や仲間の“すごい”と出会った文化祭

10月25日、さわやかな秋風を感じる中、「きみのすごいに会いに行く」

をテーマに文化祭が開催されました。開会式では、生徒会副会長が「自分の魅力を知り、知ってもらうためには、1つ1つのことに全力で取り組み新たなことに挑戦すること。仲間の魅力を見つけるためには、文化祭までの頑張りを認め合い、お互いに協力し楽しむことが大切。」とあいさつをしました。



そして、始まった文化祭。クラス合唱は、各クラスともゴールデングランプリをめざして、これまでの練習の成果を出し切るようクラスが一体となった合唱を披露しました。合唱の審査員からは、「クラス合唱は、仲間と一緒にがんばる経験、自分のクラスの良さを見つけるためのもの」との講評があり、改めてクラス合唱の意味を考えました。その後、学年展示や英語弁論の発表、保健委員会が作成した睡眠啓発ビデオ、文化部や授業で製作した作品展示、吹奏楽部コンサートが行われました。



クライマックスは、生徒会発表。桃太郎を題材とした劇、笑いの中にも友情や自己の長所を生かした仲間との絆を描いた内容で、そのメッセージは確実に生徒の心に残りました。その余韻が残る中、全校合唱「大地讃頌」を歌い上げ、閉会となりました。生徒会執行部を中心にさまざまな立場で、一人ひとりが責任を果たしたことで素晴らしい文化祭が完成しました。



社会で必要な力を実感した2年生職場体験

10月15日、16日、2年生が、職業観やこれからの生き方を考えること

をねらいとして市内42カ所の事業所で職場体験学習を行いました。生徒は、体験する



職業について学んだ後、訪問前の依頼電話を行うなど準備を進めました。事前の準備が十分であったため、生徒は緊張感の中にも落ち着いて自己に任された仕事を行い、社会で必要な力を実感した2日間となりました。



3年生歴史を肌で感じた修学旅行



10月29日～31日、3年生が関西方面へ修学旅行を行いました。3年生にとっては、待ちに待った修学旅行。事前学習では、京都市内班別自主研修に備えて、京都の歴史的建造物や食文化を調べ、熱心に計画を立てている姿が見られました。「百聞は一見にしかず」。数々の歴史の中心となった京都や奈良を肌で感じていました。また、小学校から9年間、共に過ごした仲間との友情を深めていました。

教育講演会「自分軸」

11月4日、本校第55回卒業生で、女子短距離選手の君嶋愛梨沙選手を講師にお迎えし、麻里布中学校創立70周年記念教育講演会が開催されました。演題は「自分軸」。

君嶋さんは、自己の進んできた道を紹介する中で、中学校入学後陸上競技を始めて2年目で、当時の中学校女子200mの日本記録で全国大会を優勝したこと、高校や大学時代には、けがにより思うような結果が出せなかったこと、その苦悩を乗り越えて、2022年から2024年まで全日本陸上選手権で女子100m3連覇したこれまでの競技人生を振り返って、生徒に次のようなメッセージを伝えました。



自分ひとりでは、何もできない。関わってくれる人のお陰であることをありがたく思い、「ありがとう」の気持ちを大切に。自分の目標を声に出すこと。その目標は必ず叶えられるとポジティブに考えること。

うまくいかないときは、何かの責任にしてしまう。でも、できていないのは自分自身であるので、自分自身と向き合うことが大切。自分の中に矢印が向けば、どんなことでも乗り越えられる。揺るがない自分軸はここぞというときにパワーになる。

そして最後に、自分は、日本一、世界陸上出場を叶えることができたが、オリンピック出場の目標が叶えられていない。2028年ロサンゼルスオリンピックの出場をめざす。そして、助けられ支えられた分、他の人を助け、支える人になることが人生最大の目標と力強く宣言されました。今後の活躍を皆で応援したいと思います。

吹奏楽部の活躍

10月19日、岩国祭のオープニングを飾るパレードと演奏会、11月3日には麻里布小学校金管バンドと共同で第8回ふれあいコンサートを開催しました。当日は小学生が5曲、中学生が6曲、そして小中学生の合同演奏が1曲あり、たいへん盛り上がりしました。この



コンサートは、小学生と中学生が準備や後片付けも含めて、共に活動する中で、小学生にとっては、中学生への憧れ、中学生にとっては、小学生の良き手本となる自覚が生まれ、双方にとってとても意味ある活動になりました。